

新著紹介

○熊本縣地貌誌

下間忠夫著 菊版一五八頁 熊本地歴
研究會發行 昭和七年七月 定價一圓五十錢

熊本縣は九州の重心を占めて地形に變化多く、本邦にある地形型の凡てを有すると云つてよい地方である。著者は地體を構成して居る地質に基礎を置いて地形を詳細に説述して居る。然かも確定的な説明と暫定的なものとの區別を明瞭にしてあるから若い地形愛好家を奮起させることは請け合ひである。殊にこの地形誌によつて縣下の郷土研究家は如何ばかり指針と教導とを得るか計られないものがあらう。一般の地學家に執つても阿蘇火山の地形や緑川斷層等によつて表された西南日本の中央線附近の地形や天草の島嶼地形を熟讀する時は多大の啓發を受けることが出来る。誤植や挿圖の本文と違ふ點やを少しく訂正すれば殆んど完璧な地方地形誌だと謂ひ得べしである。(N)

○近代大阪

北尾謙之助著 四六版四三六頁 東京芝罘創
元社發行 七年十二月 定價二圓

近畿景観の第一編及第二編として阪神並に大和河内の逍遙より獲た低徊趣味に溢れた觀察を公にした著者は其の第三編として茲に近代大阪なる考現學的觀察を世に送つた。本書は純粹な地理書ではないのはあるがその麗筆にさそはれて本

編の初篇「上空大阪」から終篇の「乗合バス遊覧記」まで一氣に讀了すれば、大阪なる近代都市の人文的分布の地理的概念が明瞭に獲得される。且つ吾人は其の態度が眞摯であり、周到である觀察法と地理學觀察に用ひたならば幾多の人文問題を解明し得べしと考へられる。晦澁な地理學書に無理に親しまねばならぬ吾人地理學徒はかうした流麗な觀察記をたまには手にして他山の石を拾ふべきである。加之挿入した四十一葉の寫眞はよくこの文化都市に於ける人間生活を捕捉せしむるに於ては人文地理學徒の机上を飾るに足るものと考へられる。(S)

○世界恐慌とプロツク經濟

巖山政道著 九六頁
昭和七年十二月發行

日本評論社版現代經濟學全集の第二九卷として増井光藏氏の「賠償問題」(一五六頁)と一冊をなしてゐる。近頃喧しい「プロツク」なる語は政治經濟地理上の重要問題であるが、此の政治學者の手になる書は總括的、批判的で大いに地理學徒の參考となるであらう。參考文獻として掲げられしものを見ても、ラツツエルを始めとし、チエレン・ハウス・ホーフエル、ボウマン等の所謂地政學者の著書を列記してゐる。例のブレイブス・リーグの田中蕨氏・菊川忠雄氏等の紹介により我が地理學界には夙にプロツク經濟の理解が興へられてゐるが、紹介者は此のプロツクなる概念が寧ろ政治地理學者より始つたのではないかと考へてゐる。本書の三分の二はプロツク經濟

の實情の記述で、殘が世界恐慌との關係を主とせる議論であるが、英帝國・汎米・汎歐・蘇聯の各ブロックに就いて統計をあげたり歴史に溯つたりしつゝ、地理的に與深く記す。日滿經濟ブロックに就いては別書に譲つて唯隨處に言及しあるのみ。英帝國ブロックでは三二年八月のオッタワ協定に迄及び、

中南米の「單一耕作」も大國の資本主義的大量生産の意圖たる事を述べる等多くの資料を汲み得る。而して汎米のそれは既成のもの、英國のは誕生したてのもの、汎歐、汎亞は未成のものとし、武力と資本とによる統制及び經濟的要素の相互依存性とに於て汎米ブロックを最後の地位にありとしてゐる。

此の資本主義的ブロックに對立すべきものが元來性質が對蹠的であり産業の變化は乏しいが地域的に優れたロシアの社會主義的ブロック經濟なる事は、吾人の最も注意すべき事實であらう(尾山生)

○地球物理學

中村左衛門太郎著 四六版 二二三頁
恒星社發行 定價一圓八十錢

大學の講義から面倒な數學的部分を除いたものとあるが、又机の前よりは電車や汽車の中或は公園のベンチで讀んでほしいとも同じく序文中に書いてあるやうに、わかり易く面白い本である。地球物理學の邦文參考書には寺川氏、松澤氏のものなどが有つたが、本書を手にして又別な意味の待望の充された様な喜びを感じる。それは權威者の手に成る半通俗書の廣く教育者等に讀まれ次ぎ大衆の智的レベルの上る事であ

る。本書は地球の形、地球の重さ、大陸と大洋、地球内部の構造、地球の磁力、地球の歴史、物理探鑽法の七章より成る。新學說や新技術等に就き平明な説明の他に、一般科學の進む方向に對する暗示に富む事も本書の一特色であらう。(尾山生)

○本邦鐵鋼業の現勢

東亞經濟調査局編並發行
二一六頁七表 定價一圓貳拾錢

範圍の廣い地理學に於て研究資料の蒐集は學徒の第一關心事であらねばならぬ。心理學界の名著(Geopsychologie)の内容にも觸れず地理的環境論を爲す事は結局地理學界否日本の地理學と云ふものゝ低調さを他の専門の士より指摘されるに至る。こゝに紹介する東亞經濟調査局の經濟資料は第百八十二冊で毎冊經濟地理絶好資料なるに拘らず、從來地理學者は之をどの位利用したであらうか。近刊のものにて「數字を以て表せる世界のエネルギー經濟」(六年二月)、「米國の對支經濟政策」(八月)、「我國木材需給と米材滿洲材」(七年一月)、「支那紡績業の發達とその將來」(四月)、「本邦に於ける米の需給」(四月)、「本邦に於ける棉花の需給」(七月)等皆金玉の資料に富んでゐる。標題の本書は鐵礦資源の貧弱な本邦が如何に苦心して先進資本主義國に倣つて輕工業から重工業に進まんとしてゐるかを細述する。經濟競争上不斷に新技術を採用し生産を機械化し生産規模を擴大し大量生産を行ふのに根本的な要素となる鐵鋼業の重要性を第一章に述べ、次に本邦に

於ける發達、本邦主要原料資源、需給狀態、經營狀態、將來等を述ぶ。委しい統計表も澤山あるが、それよりもグラフや分布圖の面白さに我々は眼を奪はれる。(尾山生)

○鑛物學入門

吉村豐文 望月勝海共著 東京市神田區
駿河臺西紅梅町一 古今書院發行
昭和七年十二月 定價壹圓五拾錢

地學に關する書籍の續々出版されることは斯學普及の爲め慶びに堪えぬ。本書は高等學校に於ける教授案を本として書かれたとのこと、其書名の示す通り高等學校、專門學校生徒の參考書として、又鑛物の研究に志す者の好同伴である。多年高等學校に教鞭をとられた經驗を以て、記述するところ極めて懇切に、理解を易からしめるを主眼とされてゐる。然かも極近鑛物學進歩の跡を忘れず著者の苦心も推察される。周到綿密なる校正の跡も歴然として一二の微細なる誤植があるに止まる。第一篇より第八篇に至る緒論、鑛物の形態、形品の内部構造、鑛物の物理的性質、物理化學的性質、化學的性質、成因及び産狀並びに各論を記載され、鑛物學全般に亘つてゐる。第一篇より七篇に至る插畫二一圖、第八篇鑛物各論に於ても一六五の結晶圖を載せ、總頁數一八九頁に及んでゐるが、定價の低廉なるは一驚に値する。江湖の同學の士の一讀を薦める。(K)

○村の人文地理

佐々木彦一郎著 古今書院發行
定價一圓二十錢

四六版一七六頁の小冊子であるが日本の村といふものについて、一ノの觀察をのべられた目新しい好著述である、村の成立、村の成長、村の變遷、村の家、村の生體、村の調査項目、村の吟味、村の境、村の環境と條件といふ風に、村の人文地理現象を巧妙な筆致によつて解説されてゐる。予は郷土研究の熱心な人々にこの好著を推薦したい。(藤田)

雜報

○暹羅産唐木の各種

一、紫檀、シヤム名 *Mai Payung* 其密林中にあるものは樹幹長く延びて高く、粗林中にあるものは低く分枝して本幹短く、樹幹直徑五〇糎のものにして長四米乃至一〇米突の材を出し、柱材、椅子、卓子、其他の裝飾家具類、牛車々輪、斧又は山刀の柄、天秤棒、珠盤等その用途ひろし。

二、黑檀、シヤム名 *Mai Makera* 樹幹直長にして枝や、少く紫檀に比して大木となるも、甘皮頗る厚くして之を剥ぐときは用材とならざることさへあり、幹の長四乃至八米となる、棚、箱、椅子、卓子の縁、小刀の柄其他多くの指物小細工に用ふ。其果實は黒色染料として極めて堅牢にして重用せられ毎年支那より絹布を輸入し黒染の上再輸出せらるゝ量亦大なり、但し此果實は腐敗しやすく、果實として輸出不可能なる結果である。